

# GOLD W12

5th Generation

取扱説明書



---

## はじめに

この度は Monitor Audio Gold W12-5G をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。  
本取扱説明書には、本機設置や操作について重要な情報が含まれています。本説明書をお読みの上、設置や操作の詳細について充分にご理解いただき、正しくご使用の上、未永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

---

## 付属品

箱から商品を取り出して、中身を確認してください。  
欠品がありましたら、直ちにお買い上げいただいた販売店に連絡してください。

本体	Room Correctionセットアップマイク
リモコン (単4乾電池×2)	スパイク付脚部 4個
12V Triggerケーブル	取扱説明書 (本紙)
電源ケーブル	保証書
電源ケーブル用2P/3P変換プラグ	

# 目次

はじめに	1	初期セットアップ	11
付属品	1	Master Controls	12-13
リアパネル	3-4	Presets	14
リモコン	5	EQ Profiles	15
フロントパネル	5	SubConnectの更新	16
コントロールパネル	6	ファームウェアの更新	17
位置決め	7	Bootloader Mode	17
カーペットフロアでのスパイク付き脚部の固定	7	自動更新	17
フローリング/タイルフロアでのスパイク付き脚部の固定	7	手動による更新	18
Gold W12-5Gを使用する	8	ファクトリーリセット	19
電源 (スタンバイ→電源On)	8	赤外線リモートコード	20
Room Correction EQ (室内補正EQ)	8	RS232	20
Room Correction EQ (室内補正EQ)に「SubConnect」を使用する	9	RS232配線構成	20
AVシステムの推奨設定	9	RS232通信セットアップパラメータ	20
Stereo (2ch) の推奨設定	9	コマンドプロトコル	20
SubConnectアプリケーション	10	コマンドリスト	21
アプリケーションについて	10	トラブルシューティング	22
インストール	10	Specifications	22

## 重要!



サブウーハーの性能を最大限に発揮するため、また最新の設定やファームウェア更新にアクセスするために、下記ウェブサイトからPC用アプリケーション「SubConnect」をダウンロードしてください。本取扱説明書には「SubConnect」アプリケーションを使用して調整可能な複数の機能に関する説明が含まれています。

→ <https://www.monitoraudio.com/en/product-ranges/gold-5g/gold-w12/>

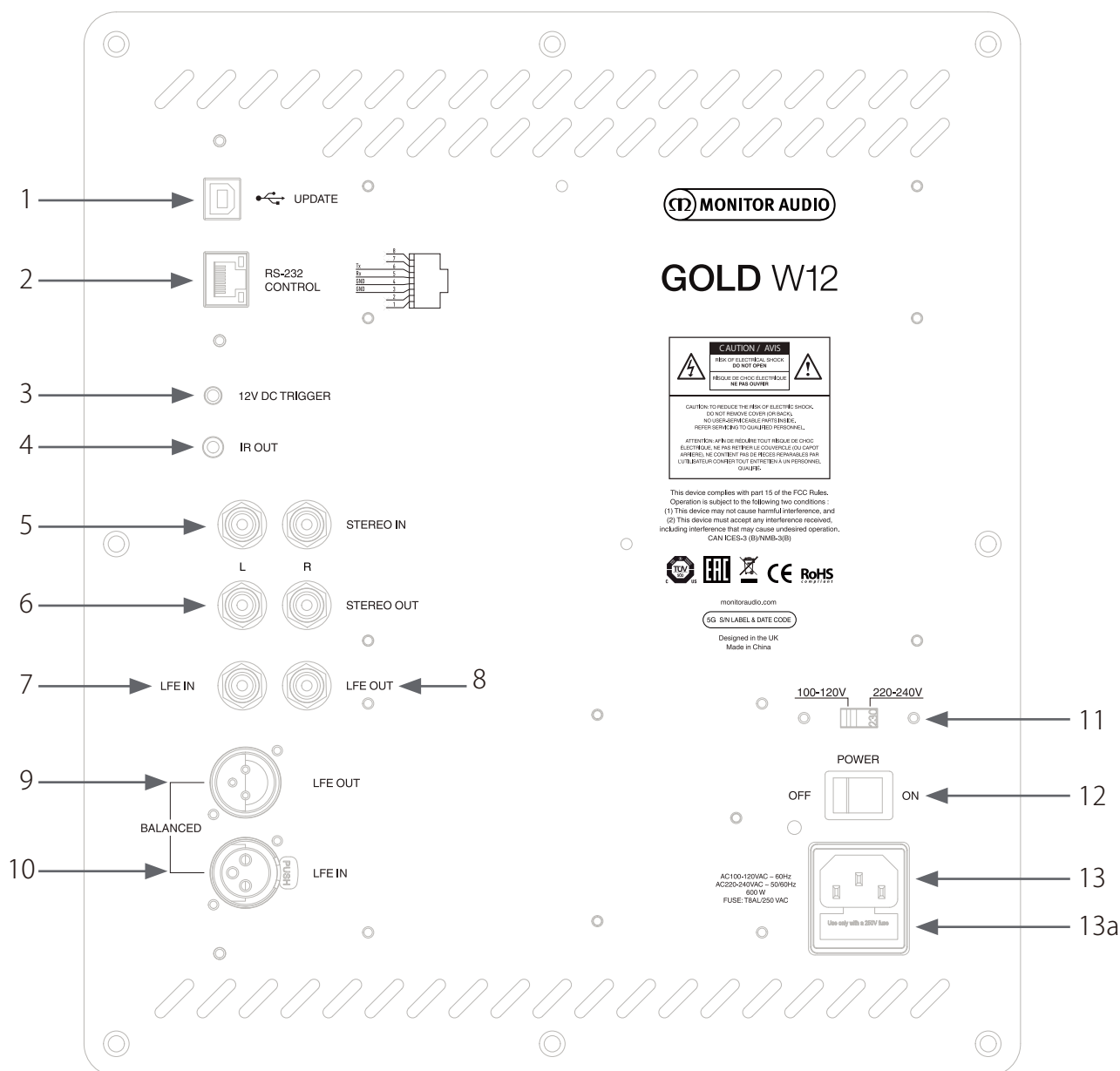
※ページ内「Downloads」タブをクリックして、「SubConnect Software」を選択

## お手入れとメンテナンス

キャビネットは、やわらかい布または超極細繊維の布と、家具用艶出しを使用した通常のクリーニングを行うことで、高い光沢性を保つことができます。またドライブユニットは、より細かなクリーニングが必要な場合のみ、湿った布でクリーニングしてください。

ラッカー仕上げのキャビネット用に、Monitor Audio「Lacquer Polish」、皮革製のバッフル用に、Monitor Audio「Leather Cleaner」を使用することで最適なメンテナンスが可能です。詳しくは、株式会社ナスベックのHP (<http://naspecaudio.com/>) をご確認ください。

# リアパネル



## 1. USBコネクター

SubConnect (P10参照) をインストールしたWindows PCと接続し、ファームウェアの更新およびSubConnectの設定を本機に反映させます。※本機にUSBケーブルは付属しません

## 2. RS232入力端子

ホームオートメーションシステムを構築するための端子です。※制御やプログラム方法の詳細 (P20, P21参照)  
**注意!! : 通常使用しません。**

## 3. 12V Trigger入力端子

本機を12V Trigger出力を持つAVアンプ/レシーバー等と接続し、電源ON/スタンバイモード切替を接続した機器側で連動して行うための端子です。付属のTriggerケーブルをご使用ください。12V Triggerケーブルを接続している間は、本機のAuto/On機能は使用できません (P13参照)。

#### 4. IR OUT (赤外線出力)

本機から他のIRデバイスを制御する際に使用します。本機およびその他デバイスをモノラル3.5mmジャックケーブルで接続します。他のデバイスのリモコンを本機に使用して制御します。これは、他のデバイスの配線が足りない場合や、他のデバイスがサブウーハーとは別の部屋にある場合に便利です。

#### 5. 2chステレオ入力 (RCA)

2chステレオアンプのプリアウトを接続します。**※10m以下のインターコネクトケーブルを推奨します**  
2chステレオ入力と、LFE入力の切替は自動的に行われます。

#### 6. 2chステレオ出力 (スルー)

2chステレオ入力 (RCA) をスルー出力します。2台目のサブウーハーに接続する時などに使用します。

#### 7. LFE入力 (RCA)

アンプ/レシーバーのLFE (サブウーファーch出力) を接続します。LFE入力を接続する場合、Low Pass Filter (クロスオーバー周波数) 調整機能は使用できません (P14参照)。また、2chステレオ入力とLFE入力の切替は自動的に行われます。

#### 8. LFE出力 (RCA/スルー)

LFE入力端子 (RCA) をスルー出力します。2台目のサブウーハーに接続する時などに使用します。

#### 9. LFE出力 (XLR/スルー)

LFE入力端子 (XLR) をスルー出力します。2台目のサブウーハーに接続する時などに使用します。  
ノイズに強いバランス接続により10m以上のケーブルも使用可能です。

#### 10. LFE入力 (XLR)

アンプ/レシーバーのLFE (サブウーハーch出力) を接続します。LFE入力を接続する場合、Low Pass Filter (クロスオーバー周波数) 調整機能は使用できません (P14参照)。また、2chステレオ入力とLFE入力の切替は自動的に行われます。ノイズに強いバランス接続により10m以上のケーブルも使用可能です。

#### 11. 電圧選択スイッチ

電源電圧の切替スイッチです。**注意!!: 決して触れないようにしてください。**

#### 12. 電源スイッチ (POWER OFF/ON)

本体主電源のOn/Offを行います。長期間使用しない場合はOffにしてください。

#### 13. IEC電源コネクター

IEC電源コード差込口。全ての機器の接続を終えてから、付属の電源ケーブル用2P/3P変換プラグを使用して、電源ケーブルを接続してください。

#### 13-a. ヒューズホルダー

ヒューズが破損した場合に備えて、ホルダー内に交換用ヒューズが用意されています。  
ヒューズを交換する場合は、IEC配電線を取り外して、IEC電源入力ソケット(13-a反対側)の下にあるホルダーから破損したヒューズを引き抜いてください。  
**注意!!: ヒューズを繰り返し交換することは避けてください。本体に深刻なダメージを与える恐れがあります。**

## リモコン



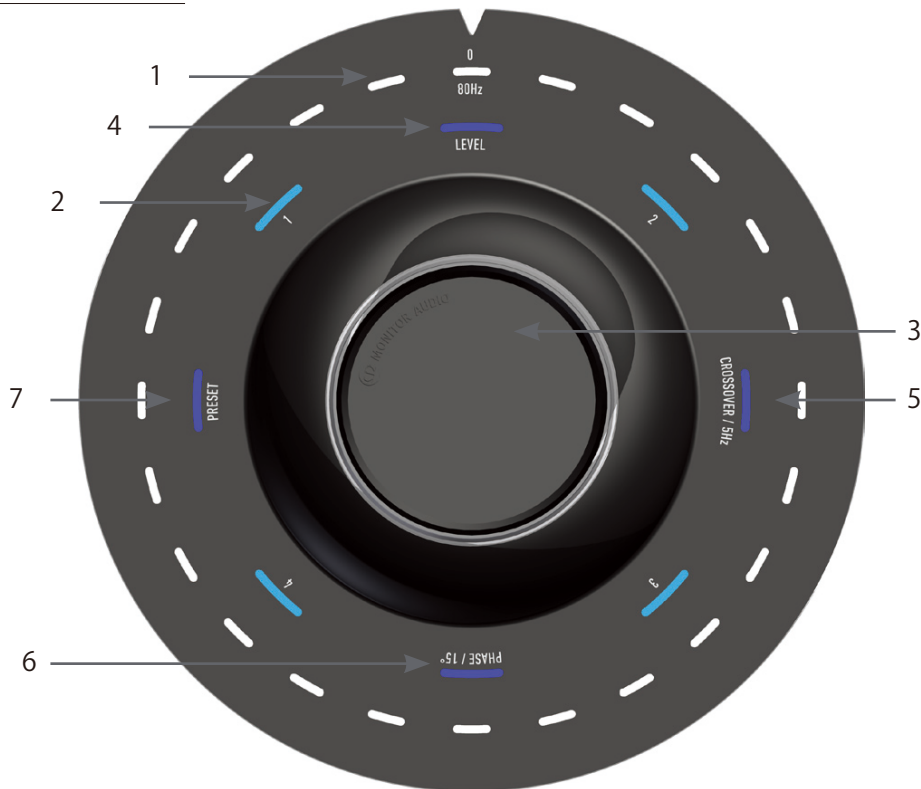
- 1. P1 (プリセット1)**  
プリセット1を選択します。デフォルトのEQプロフィールはMusicモードです。
- 2. P2 (プリセット2)**  
プリセット2を選択します。デフォルトのEQプロフィールはMovieモードです。
- 3. P3 (プリセット3)**  
プリセット3を選択します。デフォルトのEQプロフィールはFlatモードです。
- 4. P4 (プリセット4)**  
プリセット4を選択します。デフォルトのEQプロフィールはImpactモードです。
- 5. + Vol**  
ボリュームレベルを上げます。
- 6. Enter**  
コマンドを選択/確定します。
- 7. - Vol**  
ボリュームレベルを下げます。
- 8. LEDの輝度**  
LEDディスプレイのオンまたはオフを切り替えます。
- 9. スタンバイ**  
本機のスタンバイ→電源/Onの切り替えを行います。
- 10. ミュート**  
本機の出力をミュートします。
- 11. クロスオーバー周波数**  
本機のクロスオーバー周波数を選択します。左右の矢印で調整→Enterで決定します。20~135Hz (5Hz単位) で設定可能です。
- 12. フェイズ**  
本機のフェイズ (位相) 値を選択します。左右の矢印で調整→Enterで決定します。0~360° (15° 単位) で設定可能です。
- 13. 左**  
選択したコントロールメニューを調整します。
- 14. 右**  
選択したコントロールメニューを調整します。

## フロントパネル



- 1. IRレシーバー**  
リモコン (IR信号) 受信部。リモコンはこちらに向けて使用します。
- 2. IR LEDインジケータ**  
IR信号を受信した際に点滅します。
- 3. Room EQセットアップマイク入力端子**  
ここに付属のセットアップマイクを接続し、Room Correction EQセッティングを行います。

# コントロールパネル



## 1. メインインジケータLED

選択中のセッティングモードのレベルやプリセットを表示します。デフォルトでは、ボリュームレベルを表示します。通常使用時、ボリュームレベルはLevel LED (2) と共に表示され、選択中のプリセットLED 1~4 (3) が点灯します。

## 2. 1~4 LED

これらは4つのプリセットを示します。選択されているプリセットのみが点灯します。

## 3. コントロールダイヤル

回す：ボリュームレベル値調整（デフォルト）、各プリセットメニュー値調整（各プリセットメニュー選択時）  
押す：プリセットメニュー選択（LEVEL/デフォルト→CROSSOVER→PHASE→PRESET）

## 4. ボリュームレベルインジケータ（LEVEL）

通常使用時に点灯し、点灯中はコントロールダイヤルでボリュームレベルを調節できます。-11dB ~ +11dB の範囲で調整が可能です。

## 5. クロスオーバー調整（CROSSOVER/5Hz）

Low Pass Filter（P14参照）調整機能のカットオフ周波数調整メニュー使用時に点灯します。点灯中はコントロールダイヤルでカットオフ周波数を調整できます。2chステレオ入力（RCA）選択時のみ有効です。20~135Hz（5Hz単位）で設定可能です。デフォルトプリセットでは80Hzとなっています。

## 6. フェイズ調整（PHASE）

フェイズ（位相）調整メニュー使用時に点灯します。点灯中はコントロールダイヤルでフェイズ値を調整できます。0~360°（15°単位）で設定可能です。

## 7. プリセット選択（PRESET）

プリセットメニュー使用時に点灯します。点灯中はコントロールダイヤルでプリセット値 [Music (1)、Movie (2)、Flat (3)、Impact (4)] を選択できます。

## 位置決め

Gold W12-5Gは、最適な位置に配置を行う必要があります。過剰なベースブームを生み出す部屋の隅は避ける方が理想的です。最適な位置は、左右のフロントスピーカーの間となる前方の壁に沿った配置です。ただし、これはすべての状況下において可能ではありません。そのため、この配置に可能な限り近づけることをお勧めします。希望の位置に配置できたら、ケーブルが引っ張られず、十分な長さであるかを確認してください。本機の電源は、位置決めを完了し、脚部を取り付けるまで接続しないでください。

**メインスイッチがオンの状態では、入力接続の抜き差しを一切行わないでください。**

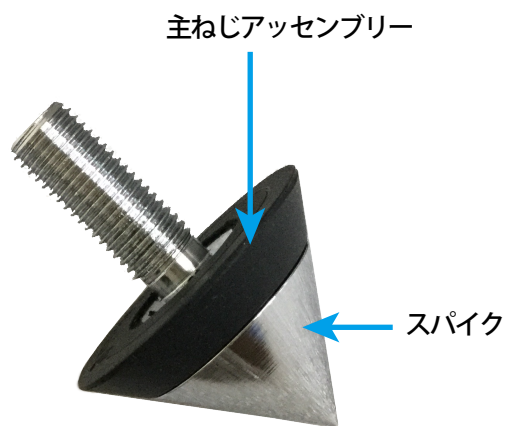
配置が完了したら、下記を参考に本体下に脚部を取り付け、信号ケーブルおよび電源ケーブルを接続してメインスイッチをオンに切り替えます。

## カーペットフロアでのスパイク付き脚部の固定

スパイク付き脚部は、カーペットフロアで使用できるよう、予めアッセンブリパーツとスパイクが組み立てられた状態で発送されています。必要な作業はこれらの脚部を本体下に固定するだけです。

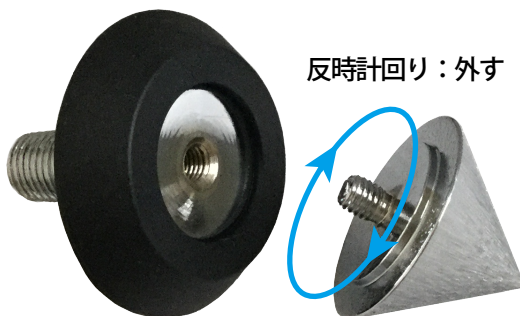
**カーペットの下に、配線や電源ケーブルがないか確認してください。スパイクにより破損する恐れがあります。**

キャビネットの正しい面を上にする際は、注意して動かしてください。希望の位置にキャビネットを配置し、すべての側面が水平になっていることを確認します。水平でない場合は最も低い位置で脚部を緩め、再度確認してください。キャビネットが完全に水平になるまでこの作業を繰り返します。



## フローリング/タイルフロアでのスパイク付き脚部の固定

硬質の床など、スパイクが使用できない場合は、スパイクを取り外して使用することも可能です。スパイクをつまみ、反時計回りに回してスパイクを取り外してください。





# Gold W12-5Gを使用する

本機の基本的な設定は、コントロールダイヤルを使用して調節を行うことができます(P6参照)。また、SubConnectアプリケーションを使用して高度な設定を行うことも可能です。初期設定のすべてのプリセットは、EQプロフィール (Music, Movie, Flat, Impact) を除き、同じになっています (P14, P15参照)。配置が完了しケーブルの接続を完了したら (主電源は最後に接続してください) 電源をオンにします。AVレシーバーなどの自動セットアップを行う前に、Room Correction (室内補正EQ) を行う必要があります。

## 電源 (スタンバイ→電源On)

以下のいずれかの方法でスタンバイ→電源/Onにした場合、上部すべてのLEDが点灯します。その後、順に消灯していき、ボリュームレベルと選択されたプリセット番号のLEDのみ点灯し続けます。LEDの明度は、SubConnectアプリケーションの設定により、10%までフェードまたは消灯させることができます。

### リモコン:

リモコンのスタンバイボタンを押すと、スタンバイ→電源/Onに移行します。2ch/LFE入力信号がない状態が続き、定義されているオートタイマーオフ時間に達すると(デフォルトでは20分)、自動的に電源/On→スタンバイに切り替わります。

なお、本機がリモコンで電源/On→スタンバイに切り替えられた場合は、コントロールダイヤルまたはリモコンからのみ、スタンバイ→電源/Onが可能です。Auto/On機能によるスタンバイ→電源/Onは機能しません。

### コントロールダイヤル:

コントロールダイヤルを押す、または回すと、スタンバイ→電源/Onに移行します。2ch/LFE入力信号がない状態が続き、定義されているオートタイマーオフ時間に達すると(デフォルトでは20分)、自動的に電源/On→スタンバイに切り替わります。

### Auto/On機能:

2ch/LFE入力信号を受信すると、自動的にスタンバイ→電源/Onに移行します。

**注意!! : Auto/Off機能により、電源/On→スタンバイに移行した場合のみ、Auto/On機能が機能します。リモコンで電源/On→スタンバイに切り替えた場合、Auto/On機能によるスタンバイ→電源/Onの切り替えは行われません。**

### 12Vトリガー (12V TRIGGER):

本機を12V Trigger出力を持つAVアンプ/レシーバー等と接続し、スタンバイ⇔電源/Onを接続した機器側で連動して行います。

### RS232:

この制御方法はホームオートメーションコントロールで定義できます。制御やプログラム方法の詳細 (P20, P21参照)

**注意!! : 通常使用しません。**

# Room Correction EQ (室内補正EQ)

本機は優れた室内補正アルゴリズムを搭載しています。マイクでサブウーハーから発信されるテストトーンを受信し、部屋に適した音場調整を行います。

### 注意

Room Correction EQ機能を使用する場合は、RS232ケーブルを接続しないでください。

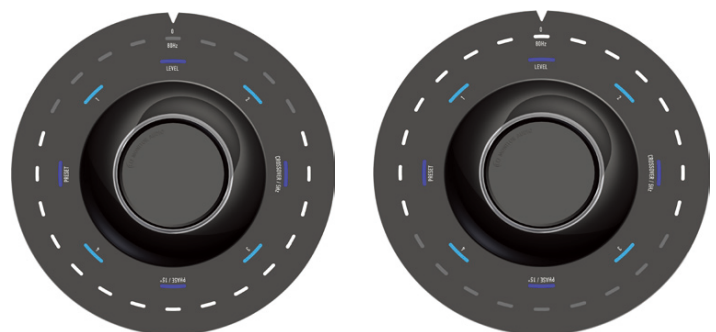
### 注意

本機を接続するAVレシーバーなどの補正機能を使用する前に、本機単体でRoom Correction機能による調整を行ってください。

Room Correction EQを実行するには、フロントパネルのRoom EQセットアップマイク入力端子(P5参照) に付属のセットアップマイクを接続し、リスニングポジションにマイクを配置します。レスポンス精度のため、マイクはまっすぐ天井に向けてください。デフォルト設定ではテストトーンを2回再生して補正を行います。SubConnectアプリケーションの「Tools」>「Room Correction」から設定を変更することができます。

マイクをセットし、カウントダウンが始まるまでコントロールダイヤルを長押しします。その後、外側のすべての(メインインジケータ) LEDが点灯、点滅するので、点滅を確認したらダイヤルを離してください。最初のテストトーン後には、20秒間ほど一時停止します。※この一時停止は、コントロールダイヤルを再度押すことでキャンセルが可能です。キャンセルした場合、すぐに次のテストトーンを再生します。

テストトーンが設定回数分再生されるまで待ちます。テストが成功/失敗は下図の様に表示されます。



テストに成功

テストに失敗

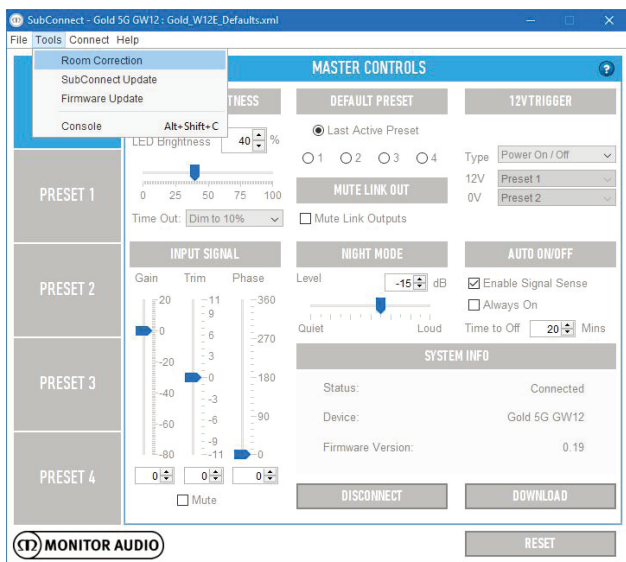
### 注意

マイク接続なしにテストトーンによる調整が行われると、エラーが表示され、すべてのLEDが点灯します。エラー状態を解除する場合は、本体上部のコントロールダイヤルを回してください。

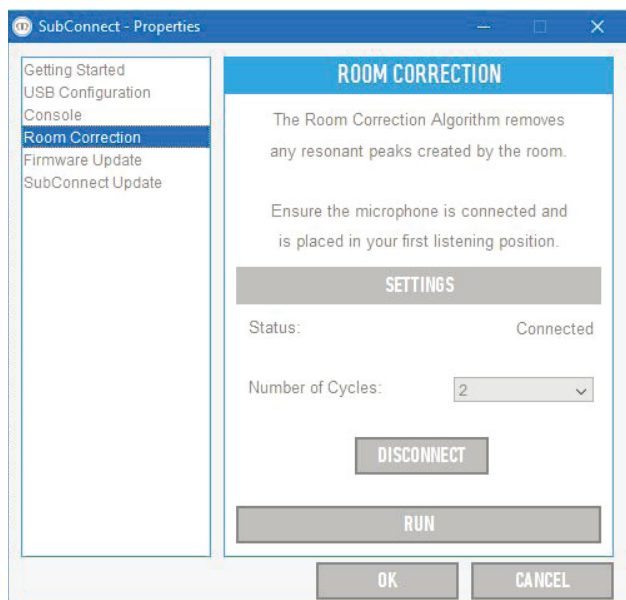
# Room Correction EQ (室内補正) に「SubConnect」を使用する

SubConnectアプリケーションで室内補正を実行するには、以下の手順に従ってください。アプリケーションのインストールについては、P10をご参照ください。

1. 本機とPCをUSBケーブルで接続して、電源/Onにしてください。その後PCからSubConnectを起動し「Tools」>「Room Correction」をクリックします。



2. 1サイクル当たりのテストトーン再生回数(デフォルトでは2回)を選択し、「RUN」ボタンをクリックします。「RUN」ボタンをクリックすると、すぐにテストトーンが再生されます。最初のテストトーン再生後、本機は20秒ほど一時停止します。



テストトーンが設定回数分再生されるまで待ちます。テストが終了すると、本体上部のLEDが点灯するので、P8の画像を参考に成功/失敗を確認します。

# AVシステムの推奨設定

本機をAVシステムで使用する場合、最初にプリセット2 (Movies) またはプリセット4 (Impact) を使用することをお勧めします。その後、必要に応じてサウンドの微調整を行うことができます (P13, P14参照)。

## 注意

LFE入力を使用する際には、Low Pass Filter (クロスオーバー周波数) 調整機能は使用できません。

## 注意

コントロールダイヤルでクロスオーバー周波数、フェイズ(位相)、プリセットの設定を行った場合、Auto/Off機能やリモコンからスタンバイモードに切り替えた場合のみ、設定が保存されます。リアパネルの電源スイッチから主電源をオフに切り替えた場合、設定は破棄されます。

# Stereo (2ch) の推奨設定

本機をステレオシステムで使用する場合、最初にプリセット1 (Music) またはプリセット3 (Flat) を使用することをお勧めします。その後、必要に応じてサウンドの微調整を行うことができます (P13, P14参照)。プリセットの選択を終えたら、クロスオーバー周波数の調整を行い、お使いのメインスピーカーとシームレスに再生できるよう調整します。聞きなれた音楽を数曲再生して、調整を行うことをお勧めします。

## 注意

コントロールダイヤルでクロスオーバー周波数、フェイズ(位相)、プリセットの設定を行った場合、Auto/Off機能やリモコンからスタンバイモードに切り替えた場合のみ、設定が保存されます。リアパネルの電源スイッチから主電源をオフに切り替えた場合、設定は破棄されます。

# SubConnectアプリケーション

## アプリケーションについて

SubConnectアプリケーションは、より最適なサウンドを実現できるよう、コントロールダイヤルよりさらに詳細な調整が可能です。

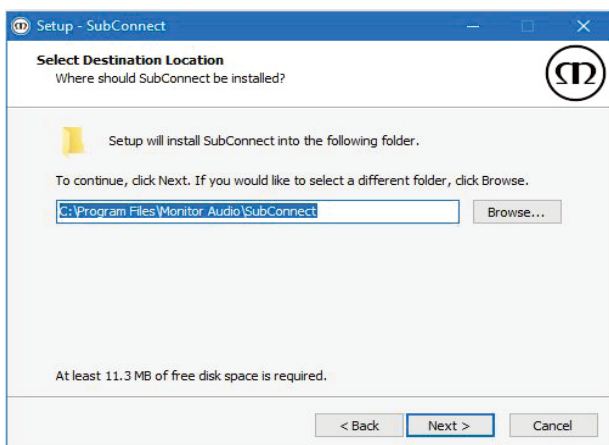
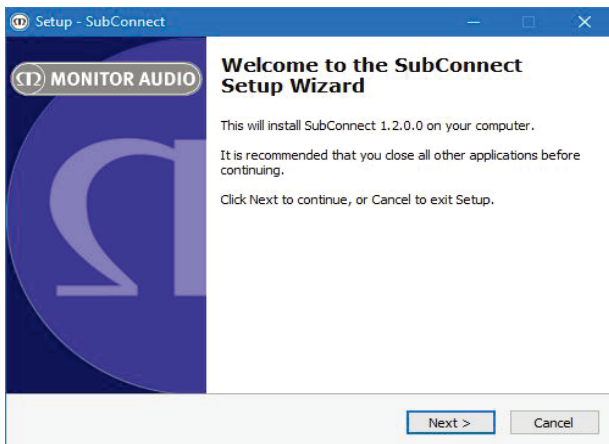
### 注意

SubConnectアプリケーションの設定は、Auto/Off機能やリモコンからスタンバイモードに切り替えた場合のみ、設定が保存されます。リアパネルの電源スイッチから主電源をオフに切り替えた場合、設定は破棄されます。

## インストール

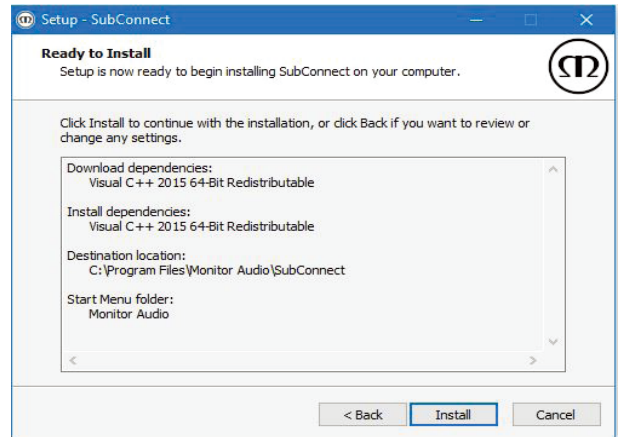
SubConnectアプリケーションを、Monitor Audio本国Webサイト(<https://www.monitoraudio.com/>)からダウンロードしてください。※製品ページ内「Downloads」タブをクリックして「SubConnect Software」を選択ダウンロードが完了したら、以下の手順にそってインストールを開始します。

1. Zipファイルを解凍し、解凍後フォルダの「setup.exe」を起動してSubConnectをインストールします。セットアップウィザードが表示されたら「Next」を押して、ライセンスへの同意を承認します。次に、インストールする場所を選択し、画面の指示に従い進めます。



2. ダイアログが表示されたら「Install」をクリックし、進捗バーが100%に達するまで暫し待ちます。インストールが完了したら「Finish」を押してください。

SubConnectアプリのインストールはこれで完了です。SubConnectが、PCのアプリケーション一覧に表示されます。

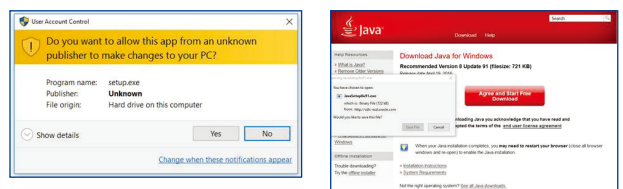


### 注意

Sub Connectアプリケーション対応OS：  
Windows 7以降, 32/64bit (2019年6月時点)  
最新のOS対応状況については、株式会社ナスpek Web (<http://naspecaudio.com/>)をご確認ください。

### 注意

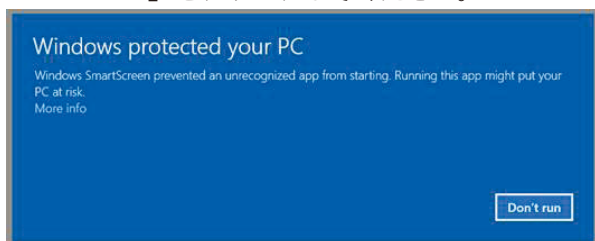
Windows10をご使用のPCで、C++またはJavaスクリプトがインストールされていない場合、下記メッセージが表示される場合があります。メッセージに従いインストールしてください。



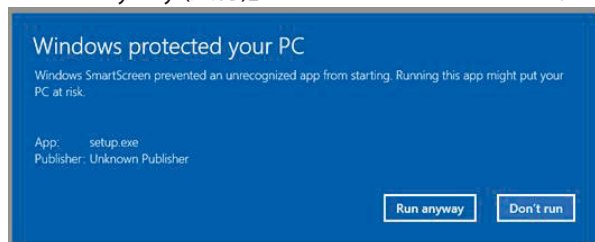
## 注意

Windows10をご使用の場合、下記メッセージが表示される場合があります。メッセージが表示されたら、下記の手順で先に進めてください。

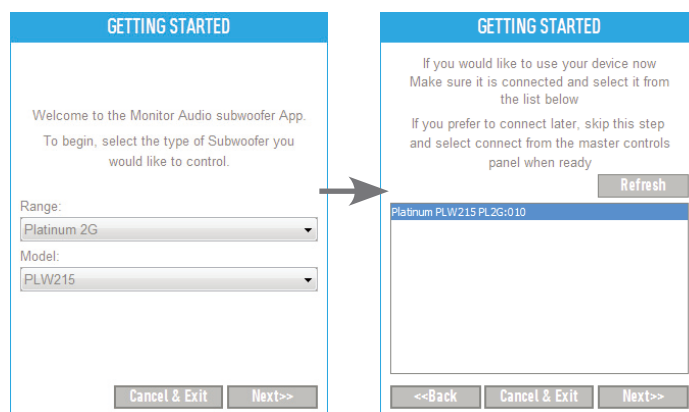
1. 「More info」をクリックしてください。



2. 再度メッセージが表示されますので、右下の「Run anyway (実行)」をクリックしてください。



2. 初めてアプリを起動する場合、以下のウィザードを自動的に開始します。「Range」ドロップダウンリストから「Gold 5G」を選択し、「Model」リストから「Gold W12/GW12」を選択します。「Next」ボタンを押すと本機の名前が表示されますので、これを選択し再度「Next」ボタンを押します。



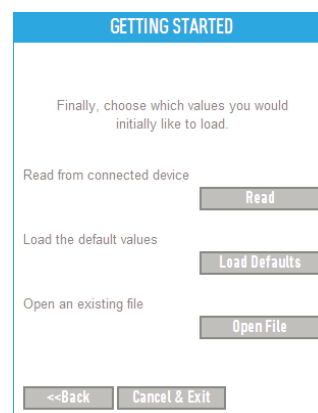
## 注意

ウィザードが正常に起動しない、サブウーハーが正常に検出されない場合は、本機の電源がOnになっているか確認してください（スタンバイモードの場合、サブウーハーは検出されません）。それでも上手くいかない場合は、本機とPCを繋ぐUSBケーブルを挿しなおしてください。またPCにインストールされているドライバーを最新バージョンにアップデートしてください。

3. 次に、選択可能な開始オプションが3つ表示されます。ご希望に合わせてボタンをクリックしてください。

Read：現在のサブウーハーの設定を読み込む  
Load Defaults：デフォルト設定を読み込む  
Open File：事前に保存した設定を読み込む（拡張子.xml）

初めて本機を起動する場合は、「Load Defaults」を推奨します。これは本機の工場出荷時の設定です。



次にSubConnectアプリケーションを起動する際は、この初期セットアップ/ウィザードに移行することなく、「Master Controls」ページから開始します(P12参照)。

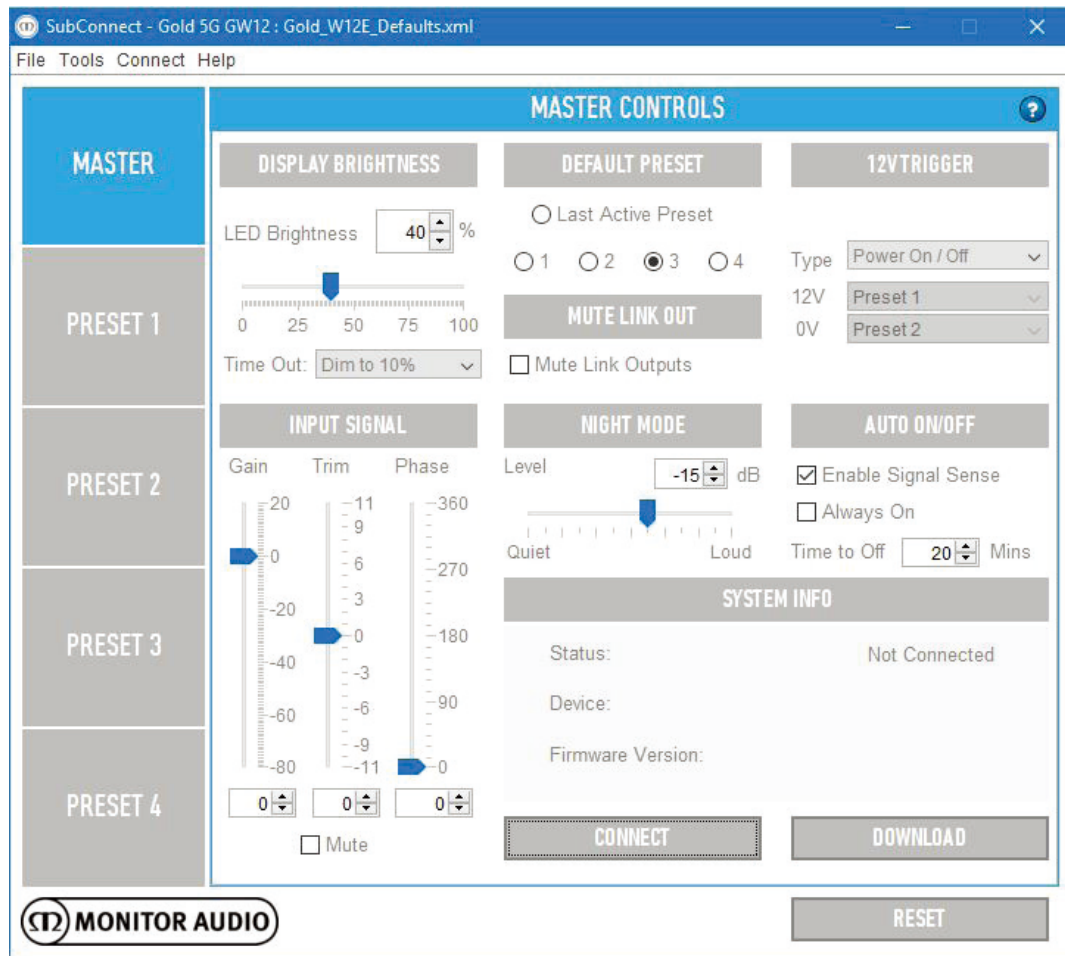
## 初期セットアップ

SubConnectのインストールが完了したら、SubConnectを起動する前に、本機とPCをUSBケーブル（A-B type）で接続してください。その後、本機リアパネルの電源をOnに切り替えてください。本機の立ち上がりと同時に、自動的にドライバーがPCにインストールされます。

1. SubConnectアプリケーションを起動してください。



# MasterControls



SubConnectアプリケーションを使用することで、本機の幅広い制御や設定が可能となります。以下では各機能とその動作について説明していきます。

## DISPLAY BRIGHTNESS

LED Brightness - LEDの明るさを調整することができます (0 - 100%)。スライダーを使用して調整を行います。カーソルをスライダー上に移動させ、マウスのホイールを使用してスクロールアップおよびダウン、または上下の矢印をクリックして調整します。

Time Out - 2分間のアイドル時間後にLEDを10%の明るさにする (Dim to 10%)、または完全にオフ (Fade to Black) に設定します。

## DEFAULT PRESET

本機がオフにされる前に起動していたプリセットで開始するか (Last Active Preset)、特定のEQプリセットで起動するか (1~4) を選択します。

## MUTE LINK OUT

2chステレオ/LFE出力 (スルー) をミュートします。

## 12V TRIGGER

### ① Type - Power On/Off

12V Trigger出力を持つAVアンプ/レシーバー等と接続し、スタンバイ⇄電源/On切替を接続した機器側で連動して行います。AVアンプ/レシーバーと本機を、付属のTriggerケーブルで接続してください。

※12V Triggerケーブルを接続し、Type - Power On/Off 選択時は、Auto/Off機能は機能しません (P13参照)

### ② Type - Preset X/Y

12V Triggerケーブルが接続されている時 (12V)と、されていない時 (0V) のEQプリセットを設定できます。

■12V (Preset 1~4) - 12V Triggerケーブルが接続されている時のEQプリセットを設定します。

■0V (Preset 1~4) - 12V Triggerケーブルが接続されていない時のEQプリセットを設定します。

Preset X/Y選択時は、2ch/LFE入力信号を受信すると自動的にスタンバイ→電源/Onに移行する、Auto/On機能が機能します (P13参照)。

## INPUT SIGNAL

Gain (ゲイン)、Trim (トリム/※ボリュームレベル)、Phase (フェーズ) の3つのパラメーターを調整します。これらはすべて、スライダー、マウスのスクロールホイールや上下ボタンのクリック、カーソルを移動しての値の直接入力などで設定可能です。また下部の「Mute」にチェックを入れることにより、出力のミュートも行えます。

「Gain」マスター出力レベル (内蔵パワーアンプの出力レベル) を調整します。これは、このSubConnectのみで設定可能です (-80 ~ 20)。通常これはゼロにしたままにし、Trimコントロールを使用して微調整を行うことをお勧めします。それでも十分な制御ができない場合は、ゲインを調整し、トリムコントロールで再び微調整を行ってください。

「Trim」ボリュームレベルを調整します。これはSubConnect、コントロールダイヤルおよびリモコンで調整が可能です (-11dB ~ +11dB)。このレベルは、コントロールダイヤル周辺のLEDにより表示されます。

「Phase」フェーズ (位相) を調整します。これは、SubConnect、コントロールダイヤルおよびリモコンで調整が可能です (0~360° / 15° 単位)。このレベルはコントロールダイヤル周辺のLEDにより表示されます。

## NIGHT MODE

ダイナミックレンジを低減しつつ最適なバランスで楽しめる、夜間のリスニングに向けたナイトモードのレベルを設定します。ナイトモードが有効化された際の減衰量をスライダーで調整します。また、プリセットパネルで有効・無効を選択できます (P14参照)。

## SYSTEM INFO

本機の情報が表示されます。Status (接続済み、未接続、ブートルoaderモード)、デバイス (モデル名)、ファームウェアのバージョンがウィンドウに表示されます。

## CONNECT (設定の反映/本機→SubConnect)

接続した本機の設定を、SubConnectに読み込ませます。本機の設定を読み込む場合、データを読み込む前にSubConnectで行った変更はすべて失われ、読み込んだ設定で上書きされます。

### 注意

SubConnectの各パラメーターの設定変更を行い、保存する前に、「CONNECT」から本機の設定を読み込むと、SubConnectで編集の設定は失われます。

## SAVE (設定の保存)

SubConnectの一連の設定をファイルとして (拡張子xml) PC上に保存します。上部メニューバーのFiles/Save (保存/開いているファイルがあれば上書き) またはSave as (名前をつけて保存) を選択し、PCの任意のフォルダに任意のファイル名で保存します。保存したファイルは上部メニューバーのFiles/Openで開くことができます。

## AUTO ON/OFF

2ch/LFE入力信号を受信すると自動的に、スタンバイ→電源 /Onに移行する①Auto/On機能のOn/Of (Enabled Signal Senses) と、2ch/LFE入力信号がない状態が続き、定義されているオートタイマーオフ時間に達すると (デフォルトでは20分)、電源 /On→スタンバイに切り替わる②Auto/Off機能のOn/Off (AlwaysOn) 及びAuto/Offが機能するまでの時間を設定します。

**注意 !!: Auto/On機能は、12V Triggerケーブルが接続されていない場合、または12V Triggerケーブルが接続されているが、「12V Trigger」設定 /Typeが、「Preset X/Y」に設定されている場合に、オートタイマーオフにより電源 /On→スタンバイに移行した後のみ機能します。リモコンから電源 /On→スタンバイに切り替えた場合は、Auto/On機能は機能しません。**

①Enabled Signal Senses (Auto/On機能のOn/Of)

チェック有→Auto/On機能 On

チェック無→Auto/On機能 Off

②Always On (電源 /On→スタンバイに切り替わるAuto/Off機能のOn/Off)

チェック有→Auto/Off機能 Off

チェック無→Auto/Off機能 On

※Time to Offは、5 ~ 240分間に設定することができます (5分単位)。上下の矢印でオートタイマーオフが機能する時間を設定します。

### 注意

SubConnectアプリケーションの設定は、Auto/Off機能やリモコンからスタンバイモードに切り替えた場合のみ、設定が保存されます。リアパネルの電源スイッチから主電源をオフに切り替えた場合、設定は破棄されます。

## DOWNLOAD (設定の反映/SubConnect→本機)

SubConnectから本機に、編集時のパラメーターを反映・保存させます。成功時には成功を示すメッセージが表示されます。

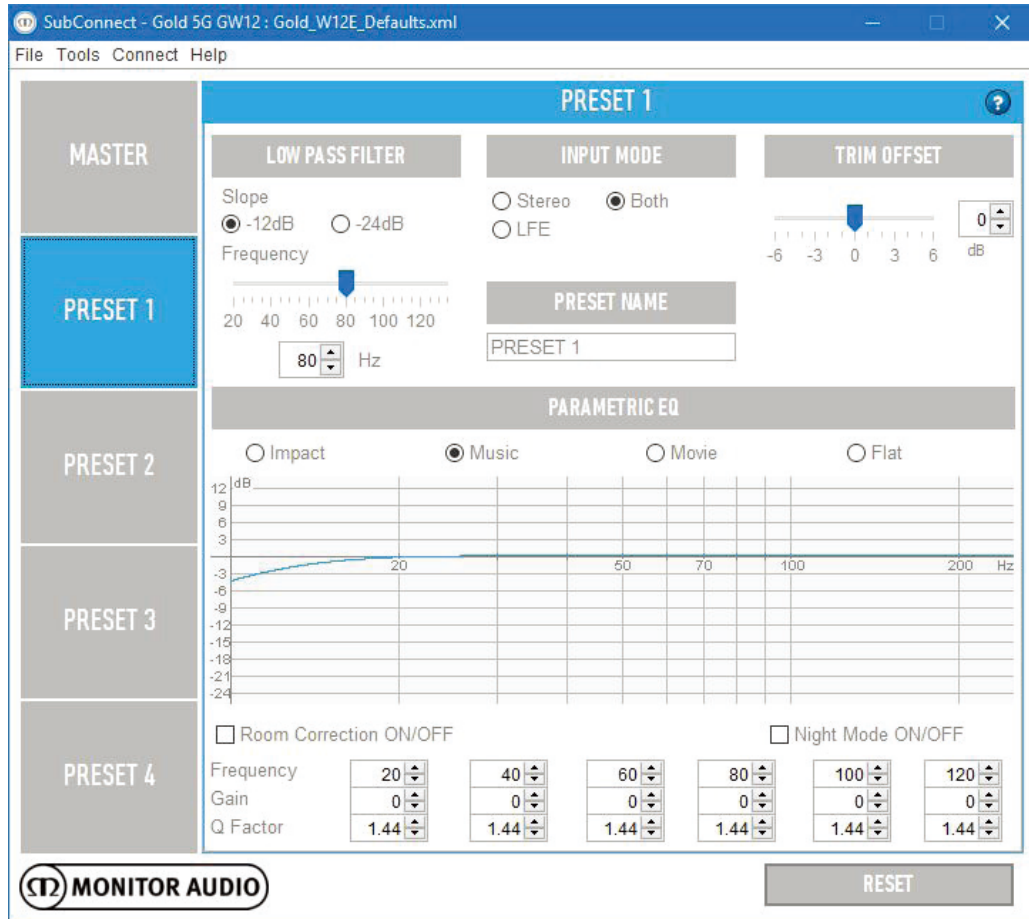
### 注意

SubConnectの設定は、「DOWNLOAD」を行わないと、本機に反映されません。設定を変更したら忘れず「DOWNLOAD」を実施してください。

## RESET (SubConnectパラメーターのリセット)

すべてのSubConnectのパラメーターをデフォルト設定にリセットします。

# Presets



本機には4つの独立したプリセットがあります。これらはお好みで設定することができます。プリセットは、コントロールパネル、リモコンまたはRS232コントロールから選択可能です。

## LOW PASS FILTER

カットオフ周波数（20～135Hz/5Hz単位）やクロスオーバースロープ（12dBもしくは24dB）を設定します。ポート型スピーカーには、毎オクターブに24dBの低周波数ロールオフがあります。密閉型スピーカーには、毎オクターブに12dBのロールオフがあります。

最適な統合を実現するためにも、サブウーハーのロールオフを、お使いのスピーカーのロールオフと一致するよう設定してください。カットオフ周波数は、コントロールダイヤルでも設定可能です。

### 注意

LFE入力を接続する場合、Low Pass Filter 調整機能は使用できません。

## INPUT MODE

このプリセットでアクティブな入力を選択します（Stereo/RCA、Both/LFE、RCA両方、LFE）。たとえばLFEのみを選択した場合、LFE信号のみ出力されます。

## PRESET NAME

プリセット名は、お好みに合わせて自由に変更できます。

## TRIM OFFSET

Master Controls (P13参照) の「Gain」マスター出力レベル(内蔵パワーアンプの出力レベル)や「Trim」ボリュームレベルに加えて、各プリセット毎に「Trim」ボリュームレベルがカスタマイズ可能です(-6～6dB)。

## PARAMETRIC EQ

特定のプリセットに使用するイコライゼーションのタイプを選択することができます。工場出荷時のデフォルトモードは4種類（Impact、Music、Movie、Flat）あり、それぞれお好みに合わせてカスタマイズすることが可能です。独自のカスタムEQを作成する場合は、「Flat」から開始することをお勧めします。また、お気に入りのデフォルトEQから始めて、リスニングを行う部屋のレスポンスを補う調整を行うことも可能です。

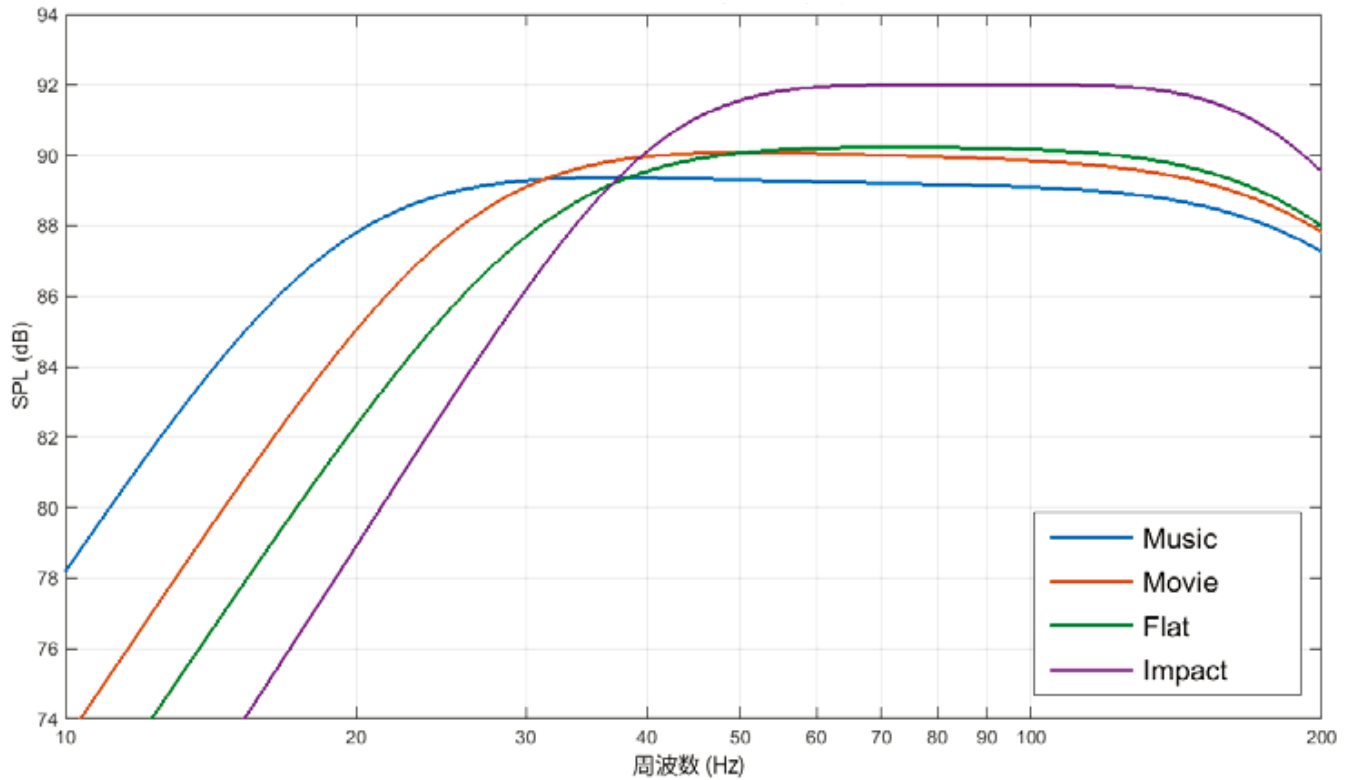
これらの設定は、上下の矢印を操作して行います。また下部のチェックボックスを選択して、RoomCorrection (P8参照) およびNight Mode (P13参照) のOn/Offを切り替えることができます。

**Frequency:** 調整を行う周波数を選択します。

**Gain:** 選択した周波数のゲイン(出力レベル)を調整します。

**Q-Factor:** Q値 (EQを受ける範囲) を調整します。

# EQ Profiles



**Impact:** 強力なインパクトを生み出すために、最も効率的でナチュラルなドライバー駆動を実現するモードです。

**Flat:** 最もフラット特性を持つモードです。  
カスタムEQプロフィールを作成する時はFlatをベースに調整することを推奨します。

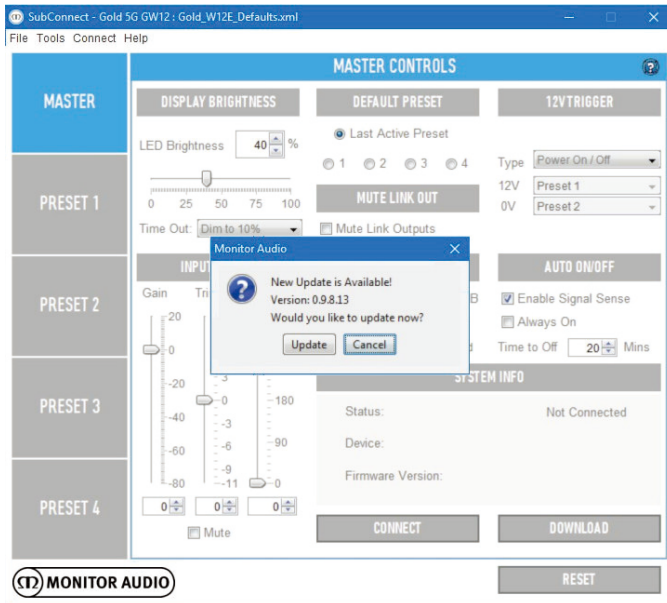
**Movie:** 映画推奨。優れた感度を持つフラットなレスポンスですが、映画音楽のバランスを生み出すための、若干広い再生帯域が設定されています。

**Music:** 音楽推奨。再生帯域が広く設定され低周波数を最大限に再生し、各楽器の周波数を最大限再現します。



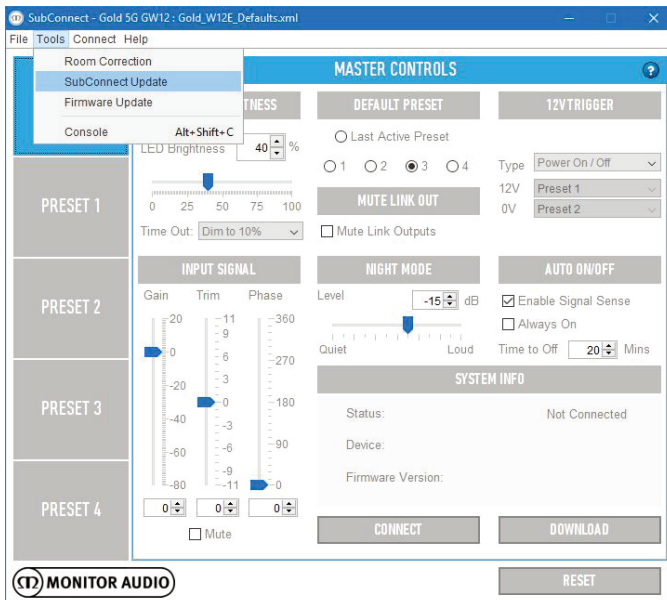
# SubConnectの更新

SubConnectは、起動の際に自動でファームウェア更新の有無を確認します。更新を検出すると以下の画面が表示されます。「Update」をクリックして、画面の指示に従いインストールを開始してください。

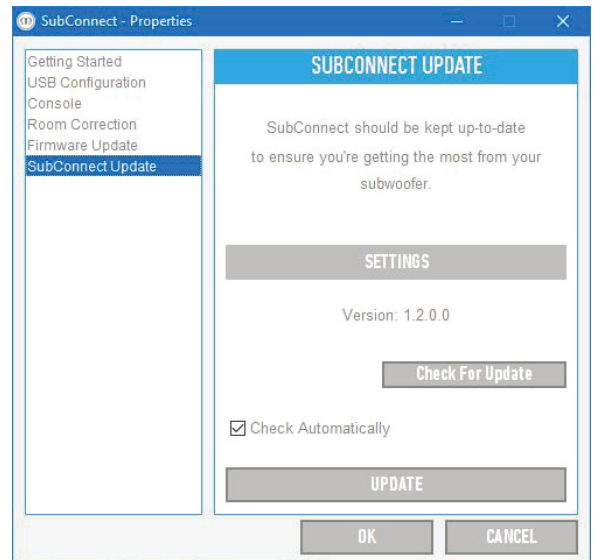


手動で更新を確認する方法は、以下のとおりです。

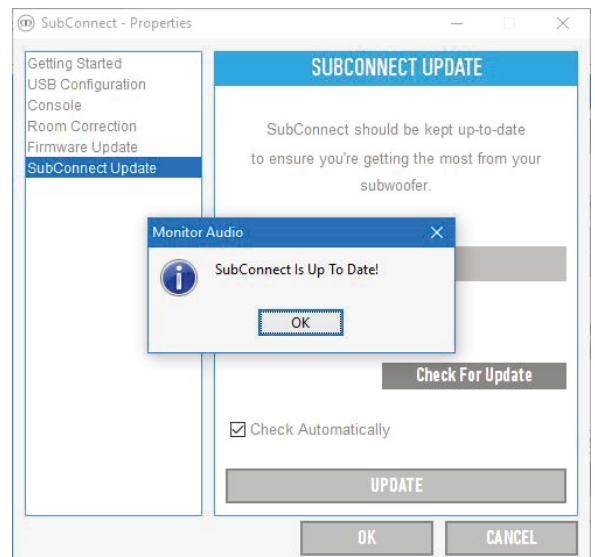
1. SubConnectアプリケーションを起動します。
2. 「Tools」 > 「SubConnect Update」をクリックします。



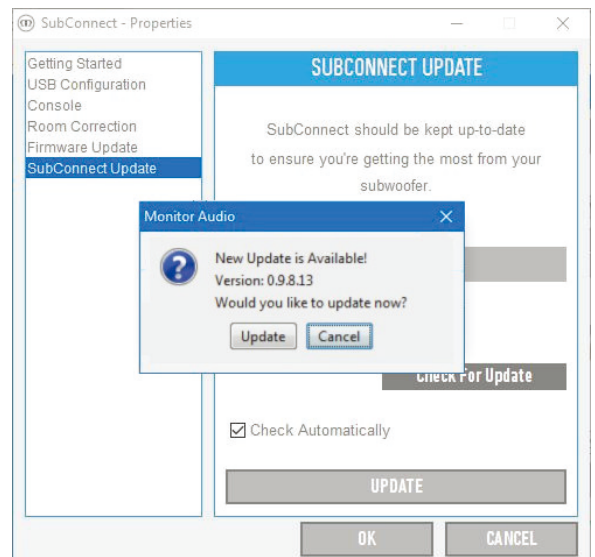
3. 「Check For Update」をクリックします。



4. ファームウェアが最新の場合は、以下の画面が表示されます。



5. 新しいファームウェアがある場合、以下の画面が表示されます。画面の指示に従いインストールを開始してください。

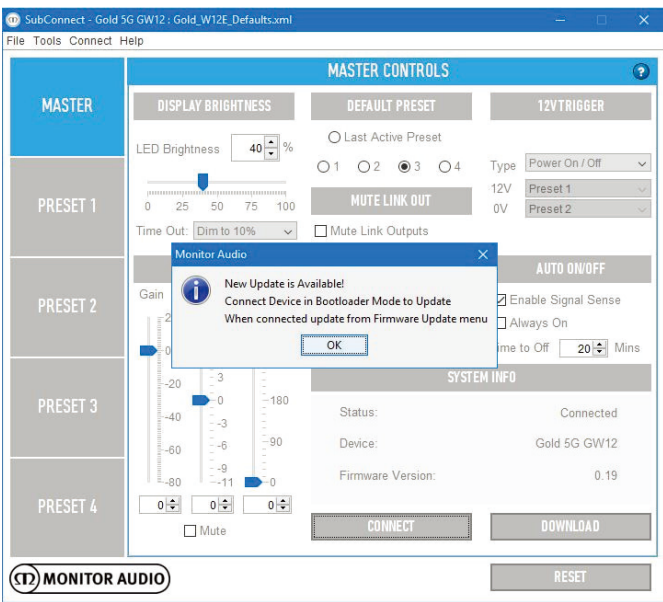


# ファームウェアの更新

SubConnectアプリケーションを起動して、自動検出または手動で「CONNECT」ボタンを押して本機との接続が確立されると、自動的にファームウェア更新の有無を確認します。更新を検出すると以下の画面が表示されます。ブートローダーモードに切り替えて、ファームウェアを更新してください。

## 注意

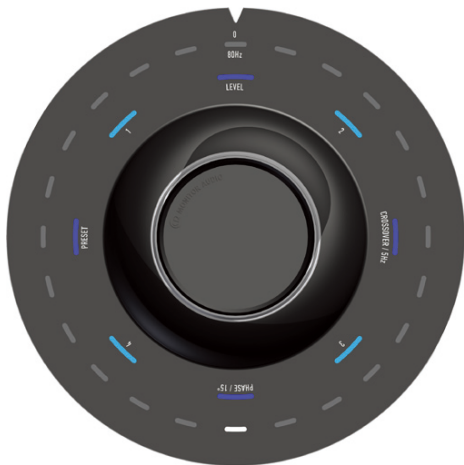
本機のファームウェアを更新するには、ブートローダーモードにする必要があります。



# Bootloader Mode (ブートローダーモード)

本機をブートローダーモードに切り替えるには、最初にリアパネルの電源スイッチをOffにして、主電源をOffにします。その後、コントロールダイヤルを押したままの状態、リアパネルから主電源をOnに切り替えます。

内側の青および青緑のLEDと外側の白いLEDが、「Phase」で終了する追跡シーケンスで点灯します(下図を参照)。これでブートローダーモードに切り替わりました。

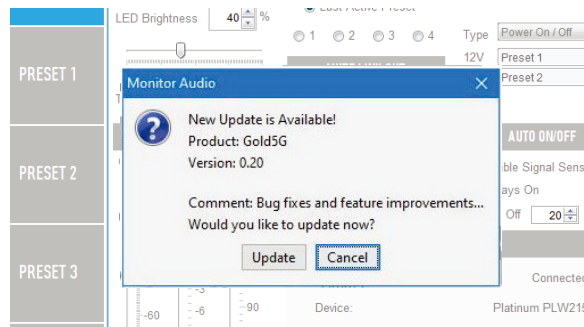


# 自動更新

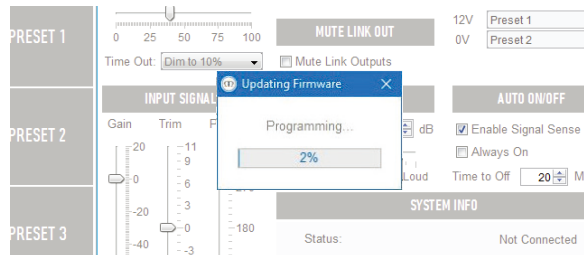
1. 本機をブートローダーモードにした後、更新を行う場合は、SubConnectアプリケーション上に表示されるポップアップの「OK」をクリックします。その後、「製品」「バージョン番号」「変更の基本的な概要」を示した新たなポップアップが表示されます。

## 注意

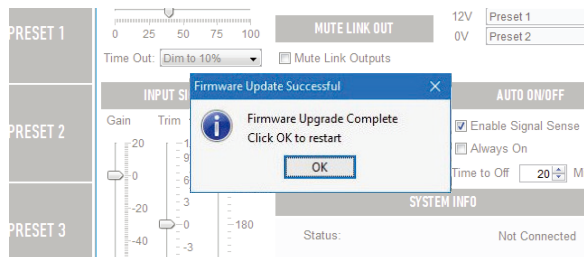
「OK」をクリック後、「Status」が未接続と表示される場合は、「CONNECT」ボタンを押して本機とSubConnectアプリを接続してください。接続が完了し、かつ更新が検出された場合は再度ポップアップが表示されますので、「OK」を押してください。



2. 「Update」をクリックすると、更新のステータスを表示した進捗バーが表示されます。

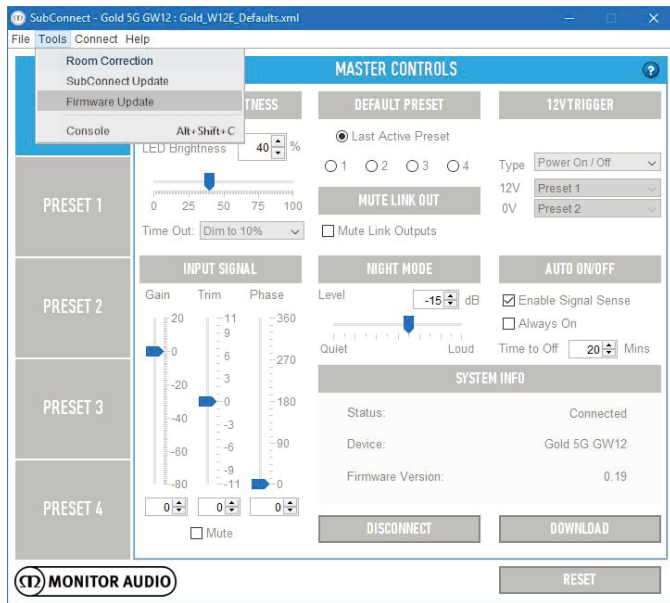


3. 更新が完了すると確認が表示され、「OK」をクリックすると本機の再起動へと進みます。本機に2ch/LFE入力信号が送られている場合、本機は自動的に起動します。本機に信号が送られていない場合、信号を送信するか、コントロールダイヤルを押す、または回して本機を起動させる必要があります。

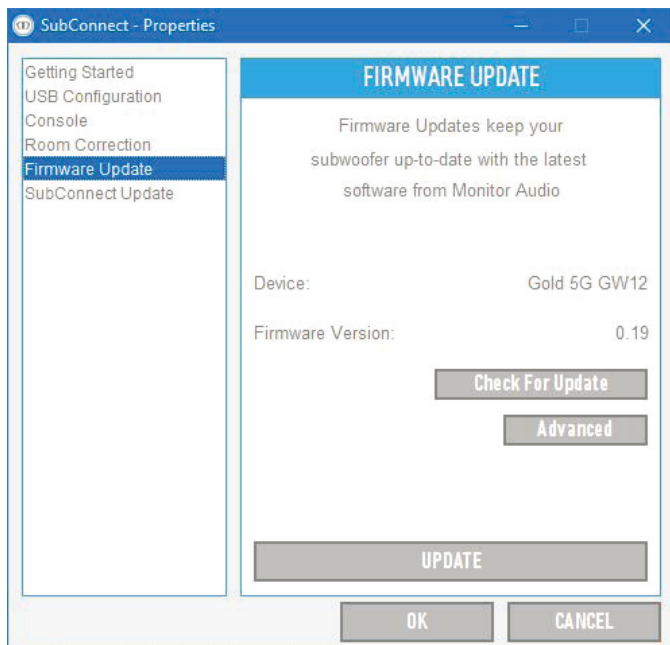


# 手動による更新

ファームウェアの自動更新が機能しない場合や、手動で更新を確認したい場合は、SubConnectアプリケーションを起動して、本機を電源Onに切り替えてください。その後、本機とSubConnectアプリを接続して「Tools」>「Firmware Update」をクリックしてください。



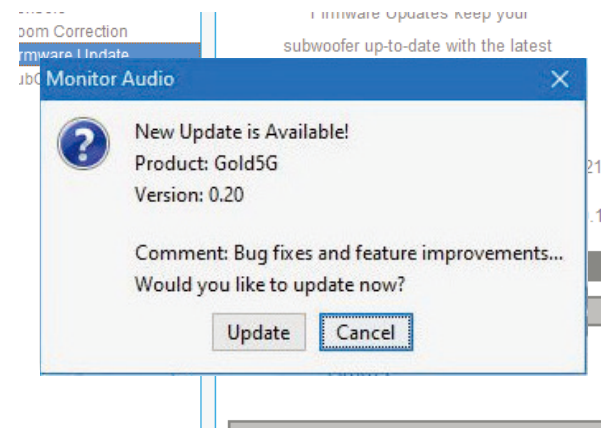
1. 「Check For Update」をクリックすると、ファームウェア更新の有無を確認します。現在インストールされているファームウェアが最新の場合は、その旨が表示されます。更新可能な新しいファームウェアを検出した場合は、以下の画面が表示されます。



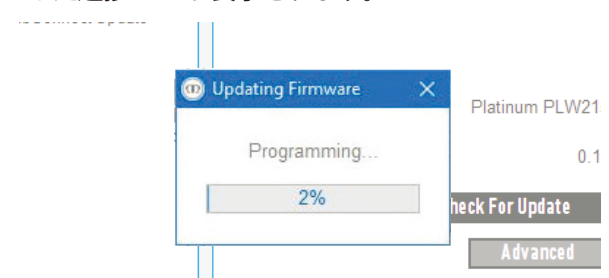
2. なお、本機がブートローダーモードになっていない場合、ブートローダーモードに切り替えるよう求めるダイアログが表示されます（P17参照）。P17を参考に、本機をブートローダーモードに切り替えてください。

切り替えが完了したら、SubConnectアプリの「CONNECT」ボタンを押して本機とSubConnectアプリを接続してください。その後「Tools」>「Firmware Update」を再度クリックしてください。

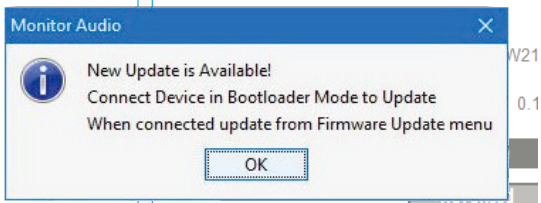
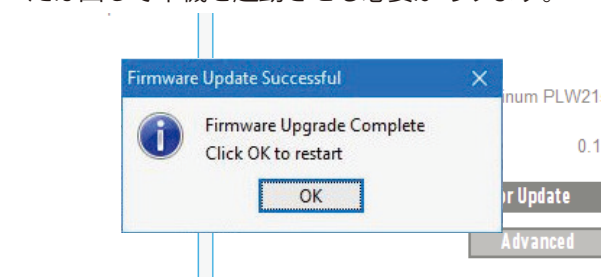
3. 「製品」「バージョン番号」「変更の基本的な概要」を示したポップアップが表示されます。



4. 「Update」をクリックすると、更新のステータスを表示した進捗バーが表示されます。



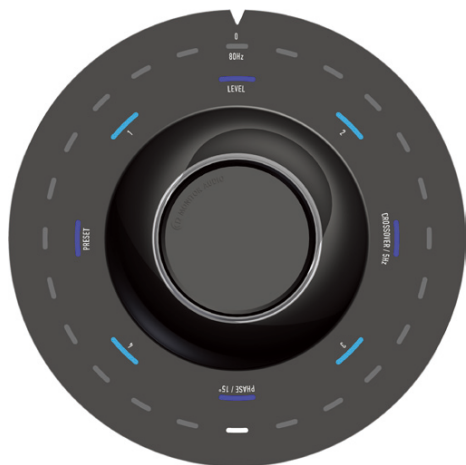
5. 更新が完了すると確認が表示され、「OK」をクリックすると本機の再起動へと進みます。本機に2ch/LFE入力信号が送られている場合、本機は自動的に起動します。本機に信号が送られていない場合、信号を送信するか、コントロールダイヤルを押す、または回して本機を起動させる必要があります。



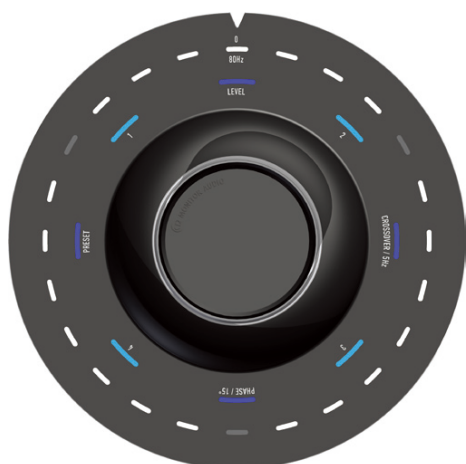
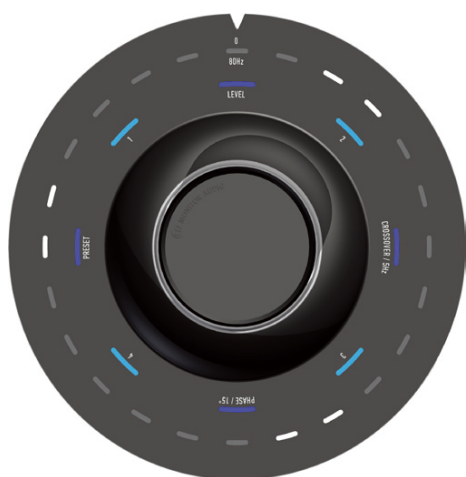
# ファクトリーリセット

本機を工場出荷時の状態にリセット(ファクトリーリセット)する場合は、以下の手順でリセットしてください。

1. 本機をブートローダーモードに切り替えてください(P17参照)。
2. ブートローダーモードに切り替わると、下記のLEDパターンが点灯します。モードが切り替わったら、コントロールダイヤルを押しただまにしてください。



3. 暫くすると、LEDが以下のパターンでカウントダウンを開始します。その後、2度点滅して終了しますので、LEDが点滅したらコントロールダイヤルを離してください。



4. ファクトリーリセットが完了すると、本機はスタンバイモードに移行します。

**注意! 以下P20, P21の項目は、ユニバーサルなりリモコンまたはRS232ポートを経由して、本機を制御する方法です。通常使用しません。**

## 赤外線リモートコード

本機には、ユニバーサルなりリモコンで使用するためのリモコンコマンドがあります。また付属のリモコンにはない、追加的なコマンドもあります。コマンドは、標準のNECプロトコルを使用しています。

### デバイスの アドレス:7D28

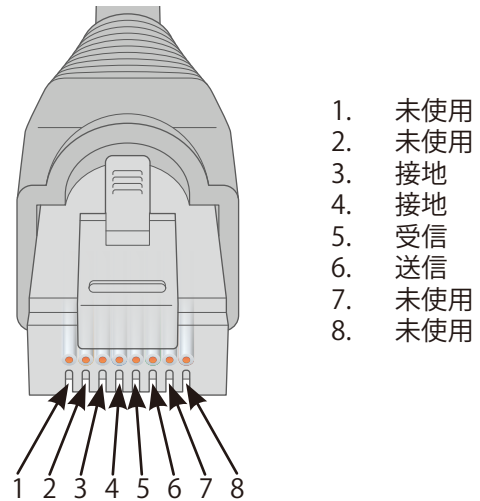
電源	48	フェイズ選択	D8
オン	D1	ディスプレイ	30
オフ	F1	エンコーダー	D0
ミュート	78	プリセット選択	B8
ボリュームアップ	A0	右ボタン	E0
ボリュームダウン	08	左ボタン	C0
プリセット 1	28	再生停止	D8
プリセット 2	58	ナイトモード切替	A8
プリセット 3	88	ナイトモードオン	D2
プリセット 4	B8	ナイトモードオフ	F2
トグルソース	00	室内EQオン	D3
ボリューム選択	28	室内EQオフ	F3
LPF選択	A8	ディスプレイオン	D4
		ディスプレイオフ	F4

## RS232

本機は、アンプパネル上のRS232ポートから制御できます。また文字列をRS232コネクタに送信することで制御できます。

## RS232配線構成

RS232通信ソケットは、標準のRJ45コネクタを使用しています。接続する場合は、アンプパネルおよび以下で示されたとおりに配線接続してください。



## RS232通信セットアップパラメータ

ボーレート:57600  
データサイズ:8  
パリティ:なし  
ストップビット:1  
ハンドシェイキング/フロー制御:なし

## コマンドプロトコル

本機に送信されるコマンドの各文字列は、同じ構造のプロトコルに従う必要があります。これらのコマンドは、コマンドリストで詳細に示されています。

RS232コマンドで本機を制御するには、特定の文字列（コマンド文字列を形成）を、RS232ターミナルから送信する必要があります。各コマンドの文字列は、以下の文字の両方で終了する必要があります。

<CR> ASCIIキャリッジ・リターン文字、13進数  
<LF> ASCII改行文字、10進数

これらは通常RS232ターミナル設定にあります。本機は、SETコマンドにより変更された更新済み情報またはGETコマンドで要求された情報を持つ有効なコマンドに反応します。また、本機が無効なコマンドを受信した場合は、**ERROR<CR><LF>**を返します。

### 注意

スタンバイ中のSET\_O以外のSETコマンドは、無効とみなされます。

# コマンドリスト

以下のGETコマンドは、本機から情報を取得するために使用されます。

コマンド	説明	本機からの応答
<b>GET_O</b>	電源 (アクティブ/スタンバイ)	POWER_ON:X<CR><LF> Xには1 (アクティブ)または0 (スタンバイ)
<b>GET_P</b>	フェーズ (0 - 345)	PHASE:X<CR><LF> Xには、0 - 345の範囲の値
<b>GET_M</b>	ミュート	MUTE_ON:X<CR><LF> Xには1 (ミュート)または0 (ミュートなし)
<b>GET_L</b>	リンクアウトミュート	MUTE_LINK_OUT_ON:X<CR><LF> Xには1 (リンクアウトミュート済)または0 (リンクアウトミュートなし)
<b>GET_S</b>	プリセットの選択 (1 - 4)	PRESET:X<CR><LF> Xには1 - 4の範囲の値
<b>GET_D</b>	ディスプレイの表示 (ON/OFF)	DISPLAY_ON:X<CR><LF> Xには1 (ディスプレイオン)または0 (ディスプレイオフ)
<b>GET_T</b>	音量 (トリムレベル/-11 - 11)	TRIM_LEVEL:X<CR><LF> Xには-11 - 11の範囲の値
<b>GET_R</b>	Room EQ (ON/OFF)	ROOM_EQ:X<CR><LF> Xには1 (Room EQオン)または0 (Room EQオフ)
<b>GET_N</b>	Night Mode (ON/OFF)	NIGHT_MODE:X<CR><LF> Xには1 (Night Modeオン)または0 (Night Modeオフ)

以下のSETコマンドは、本機の操作を制御します。

コマンド	説明	本機からの応答
<b>SET_O:1</b>	電源オンに切り替え	POWER_ON:1<CR><LF>
<b>SET_O:0</b>	スタンバイに切り替え	POWER_ON:0<CR><LF>
<b>SET_P:X</b>	フェーズ設定を選択 Xには0 - 345の範囲の値が入ります。	PHASE:X<CR><LF> Xには0 - 345の範囲の値が入ります。
<b>SET_M:1</b>	ミュート出力	MUTE_ON:1<CR><LF>
<b>SET_M:0</b>	ミュート解除出力	MUTE_ON:0<CR><LF>
<b>SET_L:1</b>	Mute Link Out出力	MUTE_LINK_OUT_ON:1<CR><LF>
<b>SET_L:0</b>	Unmute Link Out出力	MUTE_LINK_OUT_ON:0<CR><LF>
<b>SET_S:X</b>	プリセットの選択 Xには1 - 4の範囲の値が入ります。	PRESET:X<CR><LF> Xには1 - 4の範囲の値が入ります。
<b>SET_D:1</b>	ディスプレイをオンに切り替え	DISPLAY_ON:1<CR><LF>
<b>SET_D:0</b>	ディスプレイをオフに切り替え	DISPLAY_ON:0<CR><LF>
<b>SET_T:X</b>	音量トリムレベルを設定 Xには-11 - 11の範囲の値が入ります。	TRIM_LEVEL:X<CR><LF> Xには-11 - 11の範囲の値が入ります。
<b>SET_R:1</b>	Room EQをオンに切り替え	ROOM_EQ:1<CR><LF>
<b>SET_R:0</b>	Room EQをオフに切り替え	ROOM_EQ:0<CR><LF>
<b>SET_N:1</b>	Night Modeをオンに切り替え	NIGHT_MODE:1<CR><LF>
<b>SET_N:0</b>	Night Modeをオフに切り替え	NIGHT_MODE:0<CR><LF>

# トラブルシューティング

本機がLEDでエラーコードを示し(外側の白いLEDで特定箇所を点灯させつつ、内側円状の青色LED全てが点灯)、正常に起動しない時は以下の手順を行います。

1. リアパネルの電源スイッチで主電源をOffにし、10分間放置後、再度主電源をOnにして、スタンバイモード→電源/Onの操作を行ってください。
2. それでも同じエラーパターンが表示される場合は、ファクトリーリセットを行ってください。
3. なお問題が解決されない場合は、SubConnectアプリケーションから、本機ファームウェアの再読み込みを行ってください。

上記の手順でも問題が解決されない場合は、お買い上げいただいた販売店または株式会社ナスペックまでお問い合わせください。

## Specifications

モデル名	Gold W12-5G
形式	アンプ内蔵サブウーハー・密閉型
ユニット	300mm C-CAM Subwoofer ドライバー× 1, 200mm ABR (auxiliary bass radiator)× 2
下限周波数	19 Hz
カットオフ周波数上限	35 Hz - 135 Hz 可変
オーディオ入出力	入力:LFE (XLR) × 1, LFE (RCA) × 1, STEREO L/R (RCA) × 1 出力:LFE (XLR) × 1, LFE (RCA) × 1, STEREO L/R (RCA-Link) × 1
アンプ部	Hypex Class-D 600W 連続
デジタル変換	24 bit/48 kHz ADC's & DAC's built into ADAU1701 DSP Core
接続	12 V Trigger in (3.5 mm mono mini-jack, 6 V threshold), assignable to On/Off or Pre-set change, 3.5 mm Microphone input jack (mic supplied), RJ45 connector supporting RS232 (EIA/TIA - 561, Tx Pin 6, Rx Pin 5, Gnd Pin 4), IR repeater – Output (3.5 mm mono mini-jack), USB – Type B, for connecting to SubConnect PC application and Firmware update
消費電力	最大 600 W, 0.5 W (Standby)
寸法 (突起部含む)	H445 × W410 × D433.5 mm
重量	27.0 kg / 台
備考	電源モード(On/Auto)、位相切り替え(0°~360°/15°刻みもしくは0°/180°)、イコライザーモード(Flat/Music/Movie/Impact+UserEQ)、オートスタンバイ機能(5-240分/5分間隔)、付属マイクによるAPC(Automatic Position Correction)機能、Monitor AudioのWebサイトからダウンロード可能な設定アプリケーション(Windows7以降)、リモコン付属

## 保証


Monitor Audioは、常により洗練されたデザイン・設計を目指し、製品の改善に努めています。  
そのためデザイン、性能等、事前の予告なしに変更される場合がございます。  
また本製品の輸送に必要となる購入時の箱・緩衝材は、必ず保管しておいてください。

本機の保証は株式会社ナスペックが行います。  
詳しくは、株式会社ナスペックのHP/サポートページ (<http://naspecaudio.com/support/>) をご確認ください。  
修理の際は、販売店または株式会社ナスペックにお問い合わせください。

※修理についてのご質問・送り先は、下記 本社/サービスセンターにてお受け致しております。  
詳しいお問い合わせは**Monitor Audio**日本輸入総代理店 株式会社ナスペックまで



株式会社ナスペック  
〒500-8386 岐阜県岐阜市藪田西1-4-5  
HP : <http://naspecaudio.com>

TEL : 058-215-7510  
FAX : 058-268-7118  
 : 0120-932-455  
E-mail : [info@naspecaudio.com](mailto:info@naspecaudio.com)